

発行 一般財団法人 田澤記念館
住所 佐賀県鹿島市大字高津原434番地
発行責任者 平野重徳・田中 勉
発行所 鹿島印刷株式会社
発行日 2015年1月6日

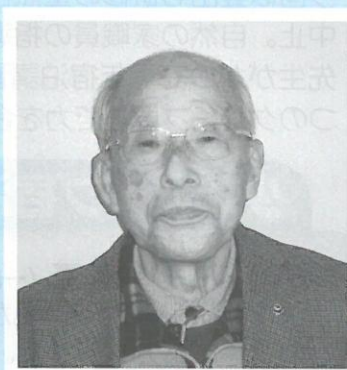
～年頭にあたって～

田澤記念館 名誉会長 平野重徳

新年のお慶びを申し上げます。皆様にはご壮健で新しい年をお迎えのことと拝察致します。

旧年中は、田澤記念館研修事業に多大なご支援と温かいお心をお寄せいただき、厚く御礼を申し上げます。時代が進み、生活様式がどのように変わろうとも、道義を基盤とした田澤精神は国民の生きる指標であることに変わりはありません。安倍総理は『個性と魅力あるふるさとを』を重要政策の1つに掲げ、地方創生部門を設置しました。田澤先生の願いが再び大きく輝く時であろうと期待しております。本年7月25日には、田澤義舗生誕130年記念大会の開催を予定し、すでに準備に入っております。意義ある内容となるよう協議を重ねております。改めてご案内申し上げますが、ぜひお出かけ下さるようお願いしております。

国際道徳・社会道徳・家庭道徳をすべての人たちが重んじ、理解するだけでなく実践行動力が強く望まれます。田澤記念館では青少年や広く地域に対して田澤精神の啓発に引き続き尽力致す所存でございます。この1年なにとぞよろしくお願い申し上げます。新年のご挨拶と致します。



平野重徳 会長

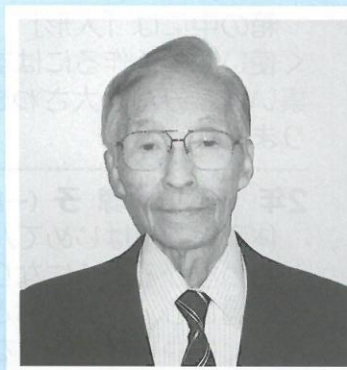
田澤記念館 理事長 田中 勉

新しい年を迎え、心からお慶びを申し上げます。皆様には、田澤記念館の活動業務にご理解をいただき、心温かくご支援を賜りまして改めて御礼を申し上げます。

田澤記念館は昭和59年、今から30年前に事業を開始。研修関係では少年クラブ員が約800人、青年研修生1,000人が研修を終え、それぞれの場で活躍をしております。研修を通して身につけた田澤精神が各自の生活に活かされていることに、大きな喜びを感じております。

昨年11月、平野重徳会長の特命を受けて、東京日本青年館研修会で「小さな街から、田澤精神の啓発に大きく強く取り組む」ことを約束して参りました。

7月には鹿島市エイブルにおいて、『田澤義舗生誕130年記念大会』を開催致します。我が郷土の誇るべき田澤義舗先生の、国家国民と地域の発展への強い思いをしっかりと基盤において、心豊かな日々を送りたいと存じます。今年も変わらずご支援を賜りますようお願い申し上げます。

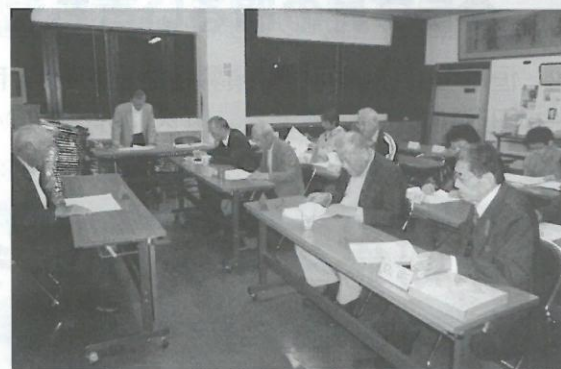


田中 勉 理事長

記念大会 準備委員会発足

田澤義舗生誕130年記念大会を7月25日開催として、昨年11月から3部会に分けて準備委員会がスタートした。10月16日の全体会議に続き11月17日に企画部会、20日には総務・広報・渉外部会の協議が行われた。

企画部長は高松昭三。総務・広報・渉外部長は竹下勇。懇親会・財政部長が池田博（敬称略）。総勢32人が大会成功に向けて新年を迎え本格的に動き出す。



第1回準備合同委員会

ご寄附ありがとうございます

- ・鹿島市民チャリティーゴルフ大会 様
- ・株式会社 サガテレビ 代表取締役社長 泉 俊彦 様
- ・株式会社 佐賀電算センター代表取締役社長 宮地大治 様
- ・株式会社 佐賀銀行 取締役頭取 陣内芳博 様
- ・祐徳自動車 株式会社 代表取締役社長 愛野時興 様
- ・山下義則 理事 様

野口周一(湘北短期大学)教授来館 著書「永杉喜輔のあゆみ」贈呈

昨年、下村湖人生誕130年記念大会で講演された野口教授が大会前日に田澤記念館を訪れ資料等を見学された。同氏は「下村」「田澤」に直接指導を受けた元群馬大学教授の永杉喜輔に社会教育学を直々に学んだ人。貴重な著書の贈呈を受けた。

少年クラブ 宿泊研修会(10月11日~12日)

武雄市山内町の奥まった大自然の中にある黒髪少年自然の家で、宿泊研修を実施した。これまでは夏季休業中にキャンプ場で行っていたが、今回は登山も研修の重点目標において行った。運悪く台風接近で登山は中止。自然の家職員の指導により室内での研修となった。班活動は田澤先生がかつて青年宿泊講習会で発案実施されたもので、異学年数人が1つのグループ単位で力を合わせて喜々とした活動が見られた。



黒髪少年自然の家宿泊研修

少年クラブ宿泊研修の感想

6年 下村 凜夏 (一部漢字標記に修正)

まれにみる大型台風が接近していましたが、登山を中止して室内研修なら安全だと館長さんの判断で自然の家での研修に出発しました。幸運にも台風の中心は太平洋側にそれて、研修は安全に行われました。

チームに分かれて対戦したバドミントン。お互いに声をかけ合い得点を重ねました。館長さんのチームとも試合ができました。食堂での食事や入浴、クラフト、夜の集いなど、あたたかい時間の中でみんなとの会話を通してクラブ員の絆はいっそう深まりました。6年生最後の、楽しい宿泊研修のことは忘れません。

3年 北村 綺野 (一部漢字標記に修正)

黒髪少年自然の家での宿泊研修は、午後から体育館でのバドミントンから始まり夜の集いがありました。集いでは、どの班も出しものは事前に話し合っただけに工夫されていました。私の班は箱の中の品物を手で触って当てるゲーム。

箱の中には「人形」「タワシ」「スライム」を入れました。箱作りは私の担当で持ち運びが便利で、こわれにくく使いやすく作るにはずいぶん考えました。何が入っているか見えないので、みんなきみ悪がっていました。夜の集いは、みんな大さわぎで楽しい時間でした。1泊2日の家を離れての研修でクラブ員みんな、いっそう仲良くなりました。

2年 田中 諒子 (一部漢字標記に修正)

体育館で、はじめてバドミントンの試合をしました。最初はなかなかつづけて打ちかえせませんでした。だんだんつながるようになりました。夕食のあと、研修室で「当てものクイズ」や「ろん語カルタとり」など、にぎやかに過ごし、「鹿島おどり」をみんなでおどって終わりになりました。2日目は「黒髪山伝説」のビデオを見て、どんぐりや松ぼっくりなどを使ってトトロを作りました。むずかしかったけど、よくできたと思います。担任の江口先生に見せたら、「わあすすてき。がんばって作ったね。」とおっしゃいました。友だちも「ひとりで作ったと?」と、かんしんしていました。

赤い羽根街頭募金

クラブ員の明るい声も温かく

恒例の「赤い羽根街頭募金活動」を昨年の末に実施。買い物に訪れた市民に募金協力を呼びかけた。感謝と奉仕は重要な田澤精神の1つである。「大いなるものへの感謝」を、実動で示すことが何よりの研修であろう。

青年研修生孔子の里「多久聖廟」で学ぶ

～論語と田澤先生の精神～

10月の青年研修(ユースカレッジ)は、多久市に307年前に地域の人たちによって造営された孔子を祭る多久聖廟を訪ね、孔子の教えを学習した。担当職員の丁寧な説明は、研修生にとって田澤先生幼少の頃に父親から学んだ生き方の姿勢を実感したと思われる。特に「宥坐之器」が建物の入口にあり、孔子が弟子たちに教えたとする「水はいっぱい入るとひっくり返り、ほどほどに入ると平行に落ち着く」。つまり謙虚や譲る心を教えた説明があった。

研修生の今後の生き方に生かされれば幸いである。



「宥坐之器」を体験